

家庭教育支援の推進に関する検討委員会（第5回） 議事次第

1 日時 平成23年11月24日（木）14:00～16:00

2 場所 文部科学省 東館3階 3F1特別会議室

3 議題 「今後の家庭教育支援のあり方に関する検討」

4 議事次第

(1) 地域における取組事例の発表

○高知県における若者支援について

高知県教育委員会生涯学習課生涯学習企画担当チーフ 前島正二氏

○泉大津市の家庭教育支援活動

大阪府泉大津市教委員会教育支援センター所長 西尾 光弘氏

大阪府教育委員会地域教育振興課総括主査 太田 正人氏

(2) 今後の家庭教育支援のあり方に関する検討

(3) 討議

5 配付資料

資料1 高知県における若者支援の取組について

資料2 泉大津市における家庭教育支援活動

資料3 家庭教育支援の推進について（骨子案）

資料4 今後のスケジュール（案）

家庭教育支援の推進に関する検討委員会(第5回)

【事例発表】

「高知県における若者支援の取組について」 －若者の学びなおしと自立支援事業－



若者サポートステーション

○地域若者サポートステーション事業とは

厚生労働省の委託事業で、平成18年度から地域における若者自立支援ネットワーク整備モデル事業として、地方自治体との協働により「地域若者サポートステーション」を設置し、若者を社会的・職業的自立へ誘導する。

★H18年度：28カ所→H23年度：110カ所

○若者の学びなおしと自立支援事業とは

高知県が平成19年度から、厚生労働省の地域若者サポートステーション事業を活用し、高知県の課題である中学校卒業時及び高校中退者の進路未定者等の所属のない若者に対して、個別相談、就学及び就労支援を行い、自立に向けた支援を行う委託事業。

★委託先

高知県社会福祉協議会・NPO法人青少年自立援助センター

＜事業の趣旨・目的＞

- 中学校卒業時及び高校中退時の進路未定者を、確実に若者サポートステーション(サポステ)につなぎ、就学や就労に向けた支援を行うことで、ニートや引きこもりにならないよう予防する。
- ニートや引きこもり傾向にある若者の社会的自立に向けた支援を行う。

＜高知県における若者の状況＞

- ①若年無業者数 3,230 人 (1.88%) 【H17 国勢調査：内閣府】
※ワースト 2 位 160 人/年がニート化
- ②国公立私立高校中退者数 364 人 (1.7%) ※ワースト 13 位 【H22 文科省】
- ③国公立小・中学校不登校者数 792 人 (1.32%) ※ワースト 4 位 【H22 文科省】
- ④国公立私立中学校卒業時の進路未定者 [家事手伝い等含む] 63 人 (0.89%) 【H23.3 県教委】
★②は H19：600 人 (2.8%) ワースト 2 位、③は H19：946 人 (1.49%) ワースト 2 位

＜課題＞

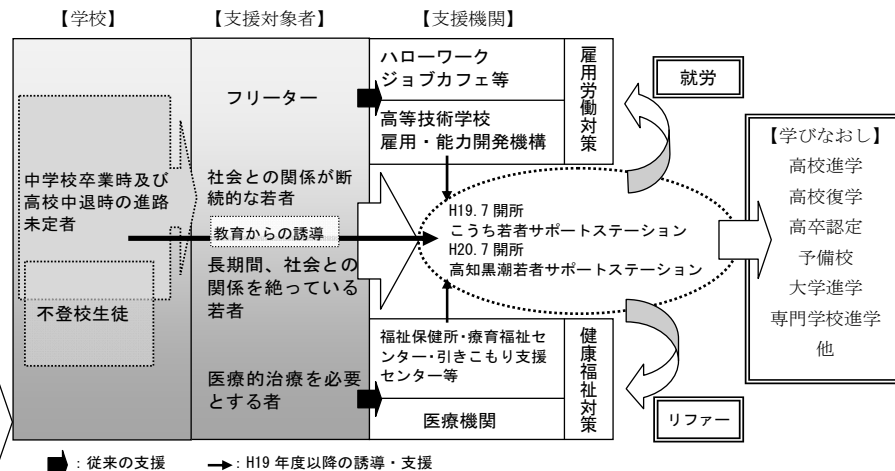
- ①中学校卒業時の進路未定者は、過年度になると対応が難しくなる。
- ②高校中退者の進路未定者は、自主的に行動できない場合、ニートになりやすい。
- ③ニートの長期化は、引きこもりになる恐れがある。
- ④引きこもりになると、本人や家族がその状態を隠すようになり、孤立する。
- ⑤引きこもりの長期化は、深刻な状況を引き起こす場合がある。

- ★ニート予防には、学校など教育機関から支援機関に確実につなぐことが必要。
- ★若者が困難を抱え込み、社会から見えなくなり孤立する前に、第三者による支援が必要。
- ★相談だけでなく、個々に応じた具体的なトレーニングを行うなどの具体的な支援が必要。
- ★25才男性・正規雇用の経済効果は、生活保護受給継続と比して約1億5千万円貢献(H23 厚労省試算)

学校での履き
をフォロー

所属の
喪失

＜若者支援の構造＞



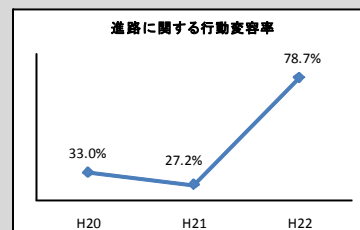
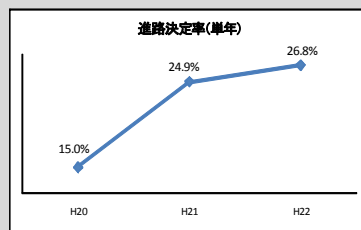
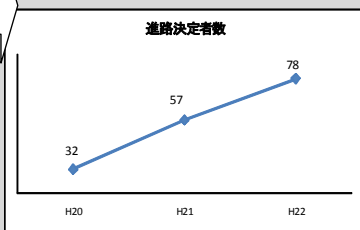
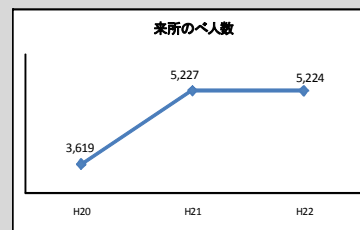
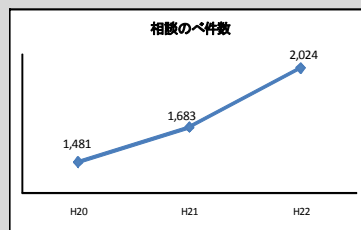
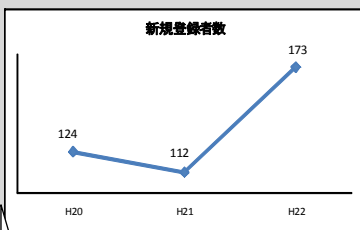
＜若者サポートステーションにおける支援＞

- 臨床心理士による心理面談
- 教員免許をもつスタッフによる就学支援
- キャリアコンサルタントによる就労支援
- 社会性を身に付けるためのソーシャルスキルトレーニング
- 実社会で役立つキャリアスキルトレーニング
- 職場見学・職場体験・インターンシップ・ジョブトレーニング

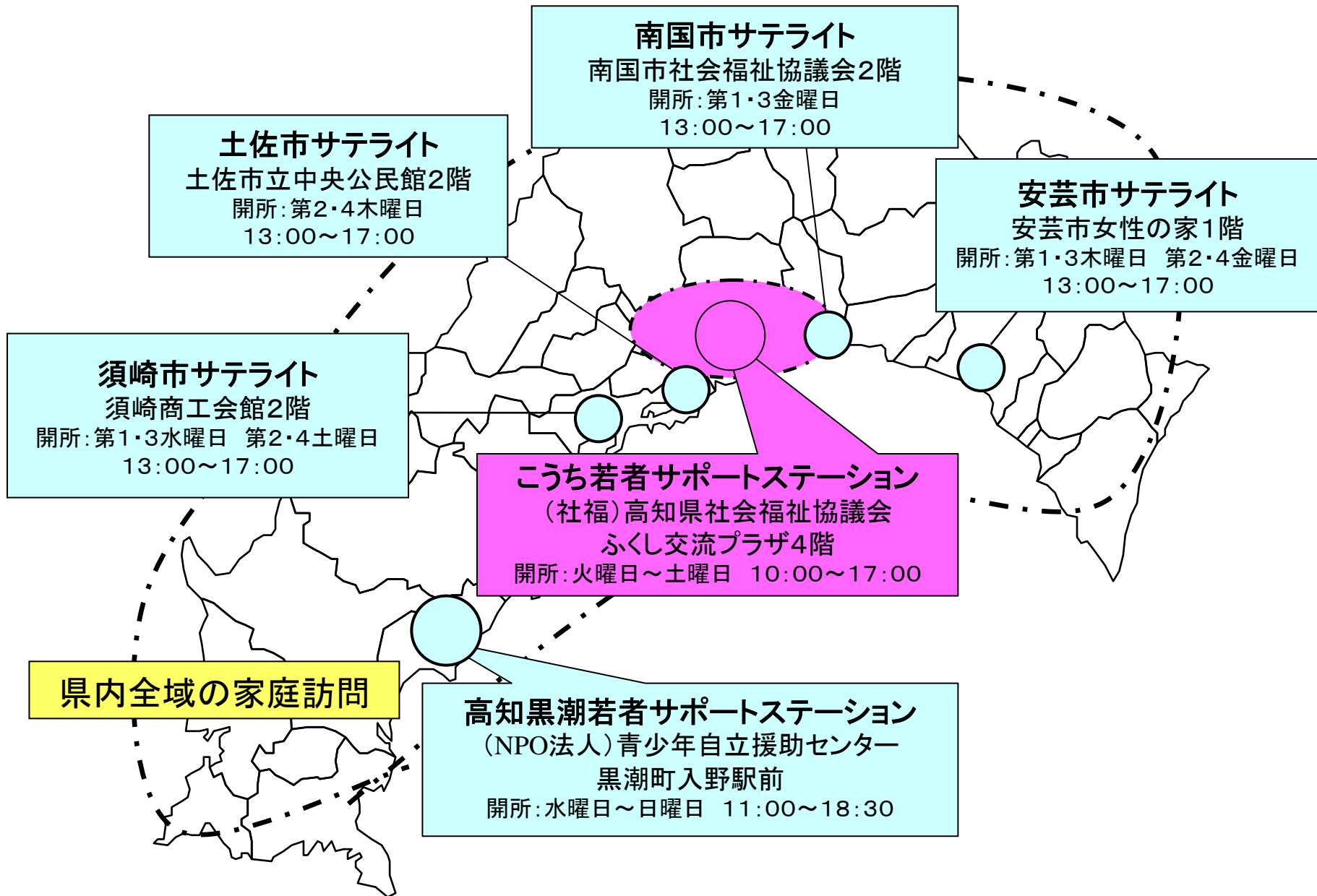


＜事業の成果＞ H20～H22

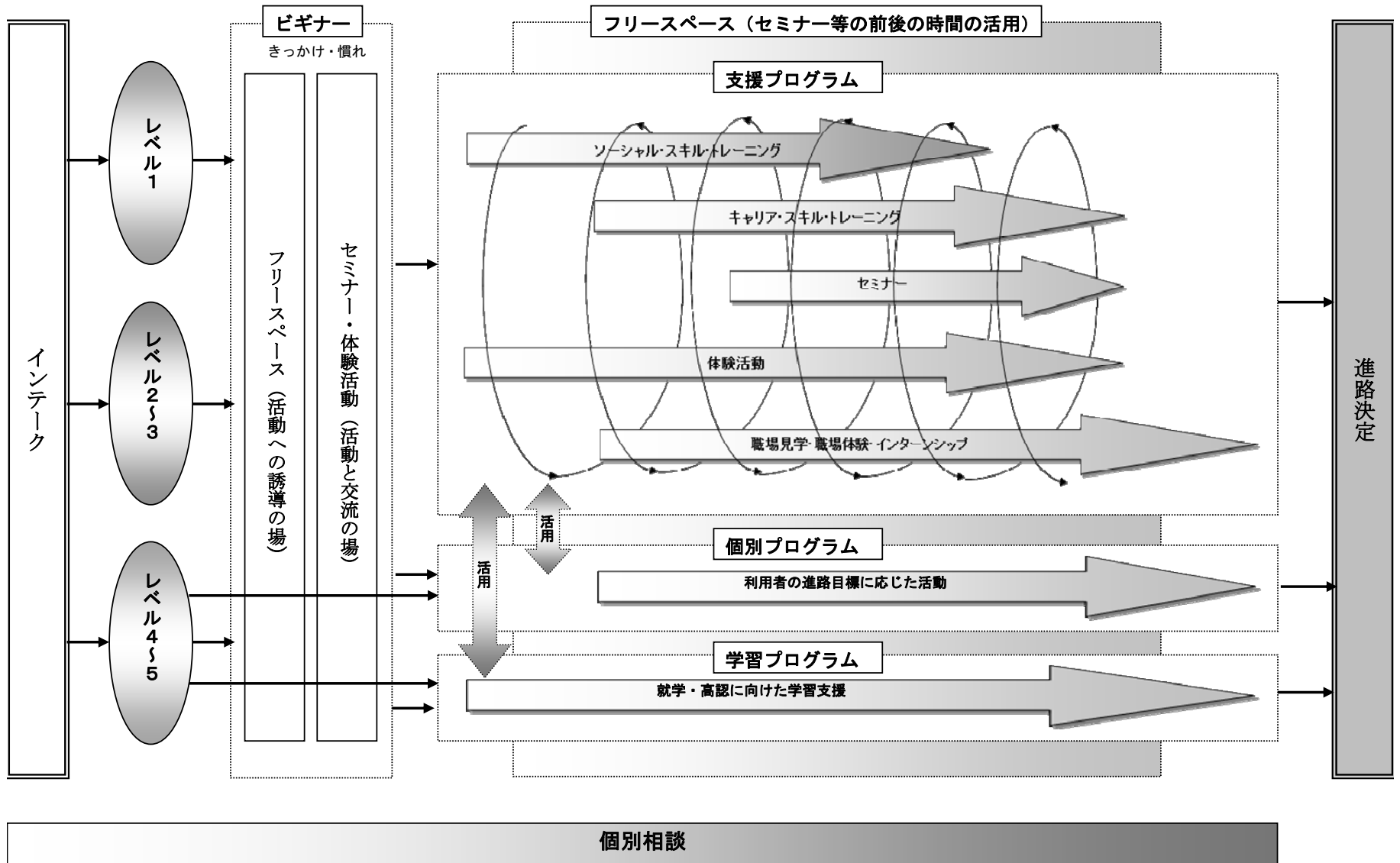
- 新規登録者数 H20:124 人→H22:173 人 (39.5%増)
- 相談延べ件数 H20:1,481 人→H22:2,024 人 (36.7%増)
- 来所延べ人数 H20:3,619 人→H22:5,224 人 (44.3%増)
- 進路決定
 - ・単年度決定者数 H20:32 人→H22:78 人 (144%増)
 - ・累積決定率 H20:21.5%→35.3% (64.2%増)
 - ・進学等 H20:9 人→H22:8 人 (11.1%減)
 - ・就職 H20:23 人→H22:69 人 (200%増)
- 6ヶ月後の進路に関する行動変容率 H20:33.3%→H22:80.2% (141%増)
- 学校からの誘導「はばたけネット」(同意書・個人情報票)
 - ・H20:5 人→H22:31 人 (520%増)



若者サポートステーションによる支援体制



支援プログラムを活用した支援の流れ(概要図)



※進路意識のレベル

レベル1 (低) ↔ (高) レベル5

支援プログラム

(H22年度の例)

| 構成 | 期 月 週 | Ⅰ(導入期) | | | | | | | | Ⅱ(定着期) | | | | | | | | Ⅲ(発展期) | | | | | | | |
|--------------------|-------------|---------------------|--------------|----------------------|-----------|--------------------|---------------|------------|------------|--------------------------|------------------|----------------------|---------------------|--------------------|---------------|---------------|------------|------------------|------------------|--------------|---------------------|-------------------------|---|------|------|
| | | 1ヶ月 | | | | 2ヶ月 | | | | 3ヶ月 | | | | 4ヶ月 | | | | 5ヶ月 | | | | 6ヶ月 | | | |
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ソーシャル・スキル・トレーニング | | SST 基礎 | 自己紹介 他己紹介 | 話の上手 な聴き方・ 伝え方 | 会話を 磨く | 上手な 頼み方・ 断り方 | 自己理解 他者理解 | 人間関 係 | 将来を 考える | SST 基礎 | 自己紹介 他己紹介 | 話の上手 な聴き方・ 伝え方 | 会話を 磨く | 上手な 頼み方・ 断り方 | 自己理解 他者理解 | 人間関 係 | 将来を 考える | | | | | | | | |
| キャリア・スキル トレーニング | | | | | | ビジネスマ ナー基礎 | ビジネスマ ナー応用 | メモ術 の基礎 | メモ術 の応用 | 報・連・ 相の基 礎 | 報・連・ 相の応 用 | 情報活 用 | 情報活 用 | ビジネスマ ナー基礎 | ビジネスマ ナー応用 | メモ術 の基礎 | メモ術 の応用 | 報・連・ 相の基 礎 | 報・連・ 相の応 用 | 情報活 用 | 情報活 用 | | | | |
| セミナー | | | | | | | | | | | | | キャリアア プランニ ング | | 自立と生 計 | | 労働と社 会 | | 就職活動 | | キャリアア プランニ ング | | | 就職活動 | 就職活動 |
| 体験活動 | | 清掃ボランティア (自己有用感) | | | | 清掃・施設ボランティア | | | | 清掃・施設ボランティア | | | | フリー | | | | | | | | | | | |
| | | スポーツ (自己開示・協調) | | | | スポーツ | | | | スポーツ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 創作活動 (自己表現) | | | | 創作活動 | | | | 創作活動 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 自然体験 (達成感・開放感) | | | | 自然体験 | | | | 自然体験 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 農業 (生命・他者理解・自己理解・職業観) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 職場見学 | | | | | | | | | | | 職場 見学 | | | | | | | | | | | | | | |
| 職場体験 | | | | | | | | | | 障害 者施 設 | 託児 所 | 障害 者施 設 | 託児 所 | 障害 者施 設 | 託児 所 | 障害 者施 設 | 託児 所 | 職場体験 (3日) | | 職場体験 (3日) | | インターンシップ(2W)ト ライアル雇用 | | | |

若者サポートステーションの具体的な支援内容

就学・就労に向けた支援



援農活動



清掃ボランティア

若者サポートステーションの支援内容

- 心理面談(臨床心理士)
- 就学支援(教員免許を持つスタッフ)
- 就労支援(キャリアコンサルタント)
- ソーシャルスキルトレーニング
- キャリアスキルトレーニング
- 各種セミナー
- ボランティア活動
- 職場見学・職場体験・インターンシップ・
ジョブトレーニング
- 訪問支援



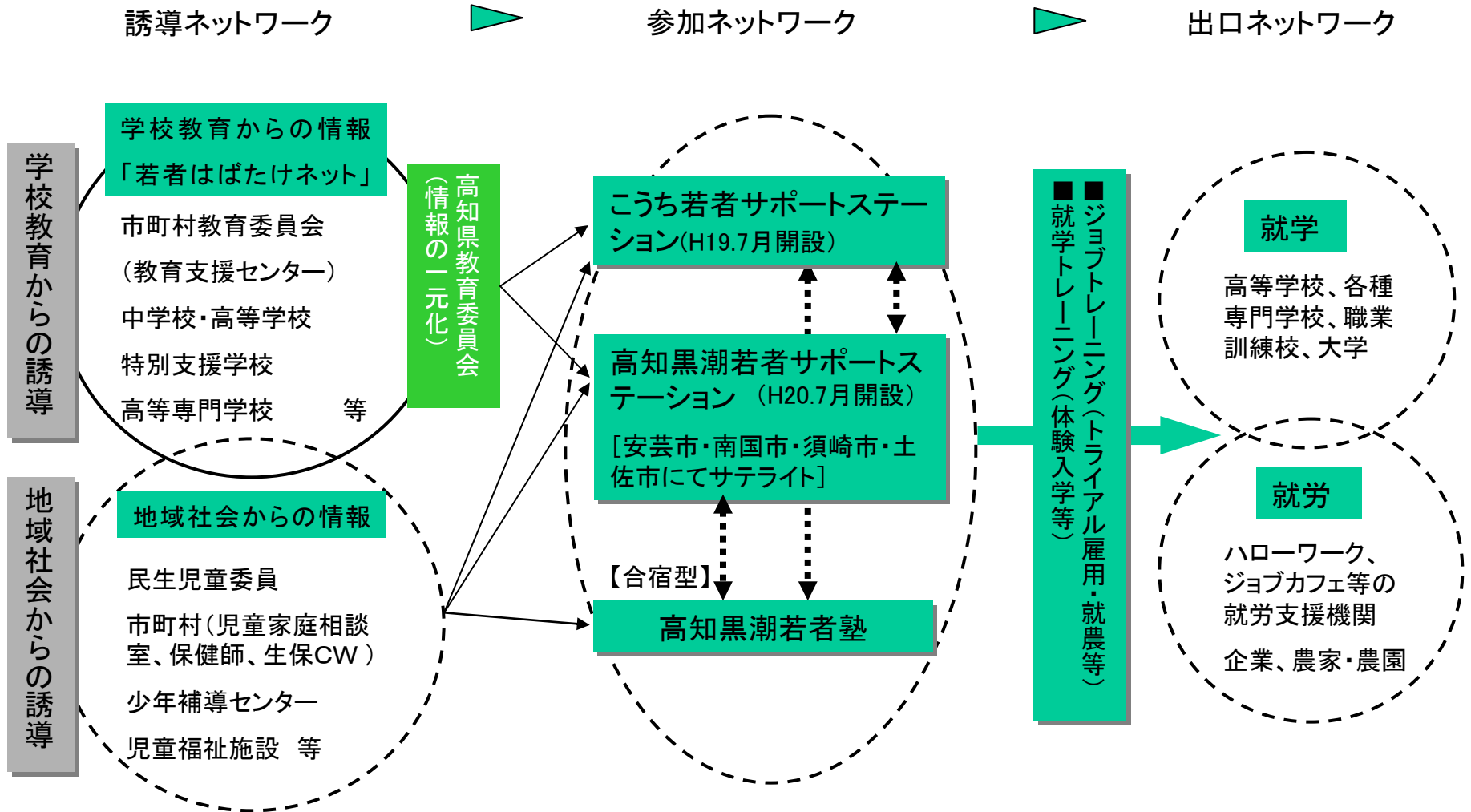
職場見学



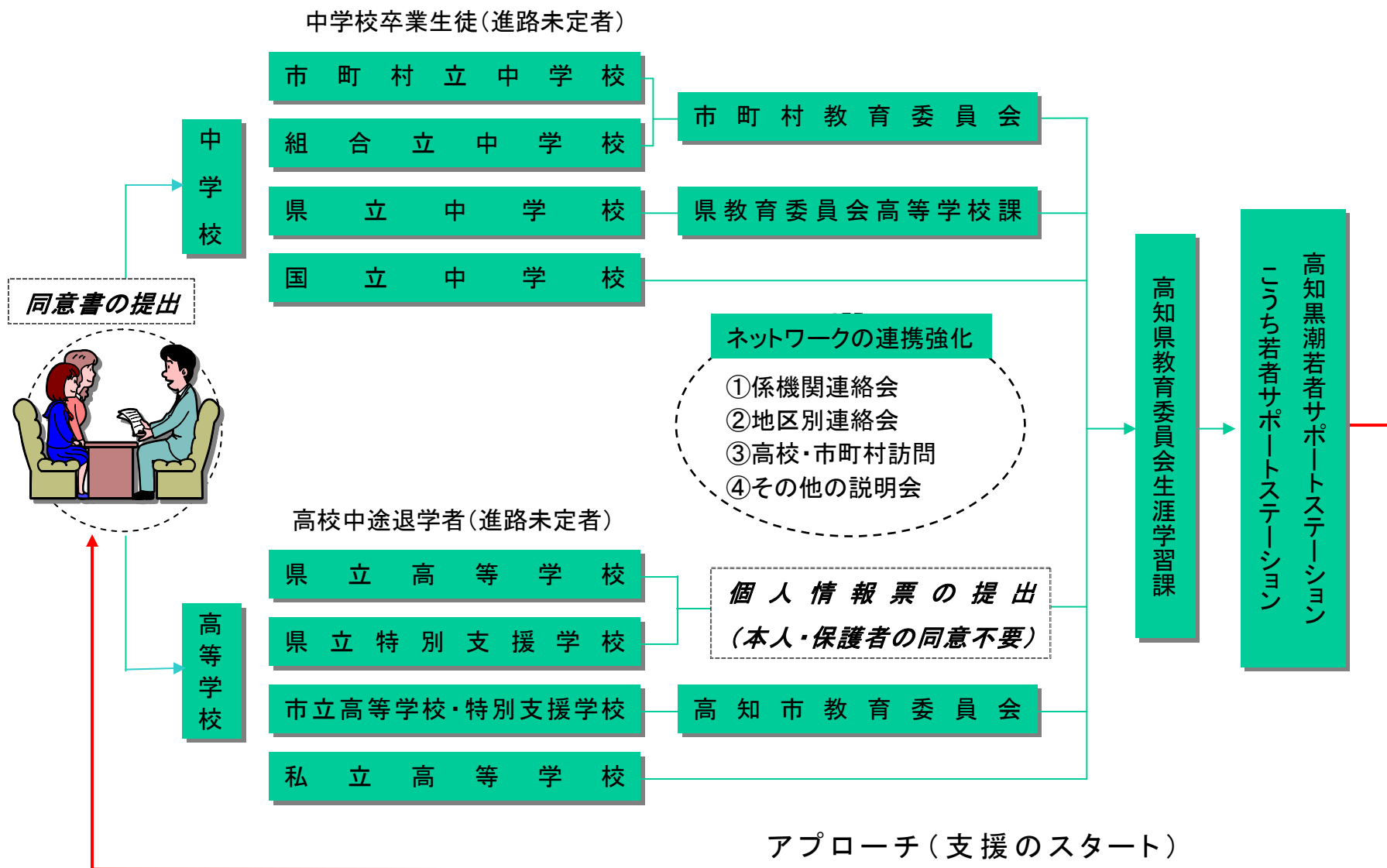
キャリアスキルトレーニング

サポートステーションを核とした若者自立支援対策の概要

関係機関(教育・福祉・医療・労働)や地域社会と連携したネットワーク



学校からの切れ目のない支援ネットワーク(「若者はばたけネット」のしくみ)



※「同意書」は、本人・保護者から学校に提出され、学校の所管を通じて県生涯学習課に提出される(個人情報の保護)

※「個人情報票」は、本人・保護者の同意の有無にかかわらず、県立学校のみ、県生涯学習課に提出することができる(個人情報保護の例外的取扱)

若者サポートステーションを核とした若者支援の実際

－ 関係機関、NPO等との連携 －

(1) 青少年自立援助センター・高知県社会福祉協議会に事業委託

○青少年自立援助センター:30年以上の訪問支援の実績 → 高知黒潮若者サポートステーション

○高知県社会福祉協議会 :福祉のネットワークを生かした活動実績 → こうち若者サポートステーション

(2) 関係機関との連携

○教育・福祉・医療・労働との連携

1) 関係機関連絡会(1回/年) ※知事部局中心

[教育].....県教育委員会・心の教育センター・職業訓練校・少年サポートセンター

[福祉・医療]..障害保健福祉課・児童家庭課・精神保健福祉センター・療育福祉センター・児童相談所
福祉保健所

[労働].....雇用労働政策課・ハローワーク・ジョブカフェ

2) 地区別連絡会(県内5ブロック:各1回/年) ※高校や市町村等の担当者が中心

[教育].....市町村教育委員会・教育支援センター・少年育成センター・高等学校

[福祉・医療]..民生員児童委員・生活保護担当者・保健師

[労働].....ハローワーク

(3) 関係機関における説明会

○各種説明会等における事業説明

1) 教育

・県立学校長会、副校長・教頭会、教務主任会、生徒指導主事会、進路指導主事会 他

2) 福祉

・民生委員児童委員連絡協議会、特別支援連絡協議会 他

(4) 高等学校・市町村訪問

○高等学校中退者の出た学校訪問、市町村の状況把握等

支援事例①

＜16歳 男性＞

県立全日制高校を中退。本人がサポステの新聞記事を見て、来所。

学びなおしを希望し、サポステで学習支援を行う。

週1回の約束をして、5教科をプリント学習で復習していった。サポステでは、ボランティア活動にも参加し、異年齢集団での経験も積んだ。

学習支援は、個別支援であったので、その中では、中退にいたる経緯を問われるまでもなく語った。中退した悔しさや悲しさ、不安を語ることによって、今までの自分を整理整頓し、次へと向かうエネルギーを蓄えることができたようである。

本人が希望する県立定時制高校には、サポステが連絡をとり、体験入学もしていただいた。出願書類の作成、面接の練習も行った。

結果、入試に合格し、復学した。

＜彼からのメッセージ＞

僕は、高校を中途退学してしまいました。そんな時に僕を救ってくれたのは、この「若者サポートステーション」でした。ここには、どんな悩みでも聞いてくれる人たちがばかりです。実際に僕は、色々悩みを抱えていましたが、ここに来るに従って悩みもなくなり、気持ちがとても楽になりました。

そして、勉強や面接練習などをしていただき、高校受験に合格して、また新しいスタートをきることができました。

一人で悩んでいたりしている人は、是非「若者サポートステーション」に来てみてください。

支援事例②

<19歳 男性>

県立定時制高校を不登校、休学し、保護者からの相談によって、支援を始める。支援開始当初は家庭訪問を実施し、スタッフとの関係が構築できた後は、サポステへ通うことができるようになる。

個別相談を通じて、高等学校卒業程度認定試験(高認)を目指して学習していくことを確認し、学習支援を行う。

高認合格後は、医療系専門学校進学を目指すこととなり、学習支援を継続した。体験入学への参加、出願書類作成、面接練習、作文練習、専門学校との連絡などの支援を行った。これと並行して、サポステの体験活動、大手スーパーやコンビニでの職業体験にも積極的に参加し、経験の幅を広げた。自らアルバイトに応募し、就労することもできた。

保護者の相談も継続して実施した。サポステでの支援状況を説明し、家庭での様子、保護者の想いや悩みをお聴きした。

専門学校の入試に合格し、進学することができた。